

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 7月17日

【評価実施概要】

事業所番号	2170102582		
法人名	医療法人社団稲葉会		
事業所名	芥見グループホーム		
所在地	岐阜市岩田 3丁目277番地1号 (電話) 058-241-5250		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル2階		
訪問調査日	平成19年7月4日	評価確定日	平成19年9月5日

【情報提供票より】

(平成19年 6月19日 事業者記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 5月 19日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤14人, 非常勤3人, 常勤換算15.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋	造り
	1階建	一部2階建て

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	光熱費20,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(90,000円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1月当たり 35,000円		

(4) 利用者の概要 (平成19年 6月19日 現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	3名	要介護2	1名		
要介護3	8名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2	1名		
年齢	平均 81.5歳	最低	50歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	芥見診療所、桐山歯科医院、サワダケアセンター
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

岐阜市東部の国道近くに建つホームで、南向きで日当たりが良く居間からはすぐ庭に出ることもでき、開放感ある造りとなっている。2ユニットの間には畑が作られ、利用者とともに収穫された野菜は食卓にあがり季節感を味わわせてくれる。勤務年数の長い職員が多く、チームワークの良さと、安定した穏やかな生活を支えている。更には、母体が医療法人であるため、24時間対応が可能な連携が取れており利用者家族の安心につながっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 改善点であった「注意が必要な物品」については、収納棚を作り、きちんと収納することで改善できていた。地域への理念の啓発や交流等については今後も時間を掛けて取り組みを継続する。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価を管理者、職員とともに行い、日々提供するケアを振り返る機会としている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 昨年度は、3ヶ月に1回、地域のグループホームと合同で開催した。会議では各ホームの状況報告やヒヤリ・ハットの報告やその時々の課題を話し合った。メンバーに家族や地域の役員に入ってもらっている。今年度より会議は各ホーム単独での開催となる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の面会時に、利用者の様子を報告したり、家族の話が聞けるような時間を持つようにしている。出された意見は個別ファイルに記入し、職員の会議で話し合うとともに、代表者に報告し対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 職員の通勤や散歩の折に地域の方に挨拶したり、自治会に加入している。地域の祭りには、神輿がホーム前に立ち寄ってくれる交流がある。さらには、運営会議等に参加される地域の方を通じ、日常的な交流を行なう方法がないか検討する取り組みが始まった。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域にある母体医療機関をかかりつけ医とする利用者が多く、入居後も地域とのかかわりを支えるサービスの提供を大切にし、「入居者本位・笑顔・優しい心」を理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関・職員の部屋に理念を掲示している。また、各ユニット会議で理念の職員間共有を図り、実現に向け取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員の通勤時や利用者との散歩の折、地域の方に挨拶をしている。近隣には住宅が少ないが、自治会に加入し、祭りの神輿がホームに立ち寄る等交流を楽しんでいる。現在は、地域との日常的な付き合いを課題とし取り組んでいる。	○	地域にある診療所が母体であるため、ホームの地域での認識や信頼は厚い。今後は、施設の行事等に地域の方にも立ち寄ってもらえるような働きかけや取り組みが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は、評価の意義を理解しており、改善点であった「注意が必要な物品」について配慮されていた。他の改善点については、現在も検討中である。自己評価は、管理者、職員と共に行い、日々のケアを振り返る機会としている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	18年度から開始された運営推進会議は地区のグループホームが合同で、3ヶ月に1回開催し、ホームの状況、事故報告や課題等話し合った。今年度からは、単独での開催を予定している。	○	行政や地域包括の職員等もメンバーにし、ホームへの要望や課題を提唱してもらったり、外部評価の報告をしたりし、地域住民へのパイプ役として推進会議を活用する取り組みも期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム側から、積極的に質問や意見を求めることにより、市との連携が取れるようになってきた。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホームの通信に、写真やお知らせ掲載はもちろん、利用者直筆の家族宛の文章の記載欄も設けてあり、本人の力に応じ記載できるよう支援している。金銭の収支については領収書を添付し毎月1回報告している。	○	さらには、通信の利用者本人記載欄の一部を活用し、職員が利用者の日常を知らせる記載もあると良い。また、金銭は支出の用途確認が家族側から分かりやすくなる提示への取り組みが期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置はあるが投書はない。家族の訪問時に利用者の近況報告をし、また、家族の希望や意向の聴き取りに心掛けている。訪問の間隔が長い家族には、随時電話で尋ねている。希望や意見は、個別の生活記録や業務日誌に記載し、会議などに出し検討している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットであるが、建物は通路を通し左右対称に建てられ、出入り口はガラス扉となっており、職員間の動きもよく分かる。職員の異動は殆んど無く、また、2ユニットの全利用者を全ての職員は把握できており、利用者とも馴染みの関係が作られている。	○	「職員名札」はあるものの、ケア時に不都合が発する状況があり、つけない職員も多い。エプロンを着用しているので、エプロンに記入する等家族から見ても分かりやすいことが期待される。また、家族に職員の名前を覚えていもらえる取り組みも期待される。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が年1回は外部研修を受講するように勤務形態を配慮している。研修受講者は報告書を提出する。また、ホーム利用者が医療的支援が必要である方が多いことから、母体法人の医師や看護師が、テーマに合わせ講師となり、学習会が開催されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への加入、18年度までの地域グループホーム合同の運営推進会議開催で交流があったホームとの交流や情報交換を行ない、ネットワークづくりの継続を行っていく。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者の多くは母体医療機関の医師をかりつけとし、入居前から法人への信頼関係がある。入居受け入れに当たり、全体会議で取り上げ、疾患への対応やケアについて検討される。また、本人の居る場所に訪問し、直接職員が会って話をする取り組みを行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に野菜づくりや花の世話、台所や家事をすることで、教えてもらったり、支えるケアを心掛けている。野菜を漬け物にしたり、共に楽しんでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前アセスメントや、入居後の日常の中で、本人の好みや習慣を把握し、記録に残している。表出が困難な場合は、コミュニケーション方法を工夫し、その方に通じる方法を見つけ出す取り組みを行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族等からのアセスメントやホーム内の日常生活の様子を記載した生活記録を参考にし、ユニットでの職員会議で意見を集積し介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	年間2回を基本とした介護計画見直しを行っている。見直し時、計画担当者は、本人の状態や家族の希望等考慮し、他の職員と話し合い作成している。また、随時の見直し時にも、関係者と十分話し合い見直し取り組みを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体法人の医療機関から月2回の往診や受診支援、本人の希望や必要に応じた機関(訪問歯科診療・訪問看護)の利用支援や法人のデイサービスの利用等柔軟な対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医師が母体医療機関の場合は、職員が受診介助する。また、診療所受診が困難な場合は月2回の往診や随時の受診支援が行われる。その他の希望医療機関への対応は、家族に依頼している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化した場合どのような希望があるかを尋ねている。本人や家族の希望をふまえ終末期には再度、医師、職員、家族間でよく話し合い適切な対応、連携が行えるよう取り組んでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いは注意を払い、記録物は場所を決め保管している。職員は日常的に、利用者の立場を配慮して、発言したり行動することを意識づけられている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れはあるが、入居前の生活習慣や好み、体調に合わせる等利用者の希望に配慮した暮らしを支援する取り組みを行っている。遅く起きた場合は、食事を温め直す等の対応が行なわれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットにより、食事の準備に係る程度は異なっているが、参加したり、作っているのを傍で見て楽しんでいる光景がある。物を持つての歩行が不安定な方は、テーブルを拭くなどその方の力にあった役割を行っている。	○	各ユニットでのケアの方法が異なっている。日常のケアについても、お互い職員間で具体的に話し合い、より良いケアの手技が共有できると良い。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1対1での入浴支援を行っている。週2回入浴日を設け、1回30分程度の入浴時間となる。法人のデイサービスでの大きなお風呂に人気があり、希望により利用を支援している。また、車椅子対応の利用者もデイサービスでの週2回の入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	早起きし、新聞を取って来たり、食事の支度をしたりと積極的に家事に参加する方がいる。畑の作業、洗濯たたみ、調理等趣味や好み、本人の力に合わせ、それぞれ楽しみなことを支援しながら共に行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	建物周辺の散歩や、敷地内の畑や庭先へ出での行動は日常的に行う。また、距離のある外出については、ホームの車で出かける。協力してもらえる喫茶店や外食店もできている。	○	医療的ケアの必要な方は外出には多くの準備が必要となるが、今後も家族等協力を得ながら少しでも外出が継続可能となるような支援が期待される。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、一番外の門が閉められているが、出入りは自由。居室内や建物からの出入り口の施錠は一般家庭と同じ対応で行っている。開設後、ホーム近辺に不審者が出て、玄関にセンサーを付け対応している。センサーは、入居者の出入りの把握にも役立っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームの防火管理者が職員に、避難経路の確認と通路の確保、消火器の設置場所の把握についての指導を実施している。	○	人の動きを確認するために避難訓練を利用者と共に行うことや顔なじみの近隣者に応援が得られるようになる等の取り組みも期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、利用者の希望や栄養バランスを考慮し職員が立てている。利用者の状態に合わせて細かく切ったりほぐしたりし、せかさずゆっくり本人のペースで食べている。食事や水分の摂取量は個別に把握し記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体が採光のよい開放感のある空間となっている。観葉植物や季節の花が多く置かれ利用者や訪問者の目を楽しませている。トイレは各ユニットに、2つずつ2ヶ箇所の計4つある。浴室は排水のよい床材が使用された1人用の家庭的な風呂である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全居室に、自然な採光が取り込めるよう天窓があり明るく日当たりもよい。利用者の馴染みのタンスや思い出の写真等持ち込まれそれぞれ個性ある居室となっている。読みやすい字の表札の設置があるが、入居者は好みの「のれん」を居室入り口に掛けている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。